

17. 農学部

(1) 農学部の教育目的と特徴	17-2
(2) 「教育の水準」の分析	17-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	17-3
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	17-8
【参考】データ分析集 指標一覧	17-9

(1) 農学部の教育目的と特徴

農学部においては、「生命、食料、環境」をキーワードに、世代を超えた生命の持続、安全で高品質な食料の確保、環境劣化の抑制と劣化した環境の修復等を教育研究の目的としている。これに沿って、農学及びそれに関連する学識と高い倫理性を身に付けた次の能力を備えた国際的社會人を育成している。

- ①人類が直面する課題に対して、幅広い視野から科学的解決法を構想できる人材
- ②農林水産業及び食品・生命科学関連産業の意義と重要性を理解し、その発展に寄与できる人材
- ③生命・食料・環境に関わる世界水準の自然科学・社会科学研究が理解できる人材

農学は生物学・化学・物理学・地学等の自然科学の諸分野と社会科学分野から構成されており、この多様な分野を総合的に活用して、有用資源を生産利用する方法、有用資源の生命維持機構や生態系の解明、有用資源を包含する環境を積極的に改善する方法等について、先端技術や最新手法の駆使、フィールドの利活用による実験・実習などにより、多面的かつ実感を持って分析・解明し、人間社会の健全なる持続的発展に寄与する人材育成のための教育を行うことが特徴である。

また、世界トップレベルにある農学研究科による創造的研究からの具体的成果や研究に取り組む姿勢を学部授業にも随時取り入れ、最先端の学問を教示し、学生の学問に対する熱意を喚起していることも教育の特徴である。

このような教育を実現するための組織として、本学部は、多岐にわたる6学科と、附属農場・牧場で構成されている。まず低学年で、それぞれの分野に共通する生物学、化学、物理学、地学、社会科学等の基礎的科目を系統的に教育し、次いで高学年で、分子・細胞レベルから生態系・地域レベルまでを対象とした学科・分野毎に異なる高度な専門教育を行うという、本学部が目指す人材の養成を可能にする教育体系を整えている。

(2) 「教育の水準」の分析

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

<必須記載項目1 学位授与方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針（別添資料 5217-i1-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目2 教育課程方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針（別添資料 5217-i2-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目3 教育課程の編成、授業科目の内容>

【基本的な記載事項】

- ・ 体系性が確認できる資料
（別添資料 5217-i3-1～2）
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料
（別添資料 5217-i3-3～6）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 教養・共通教育については、フィールド研究に強みをもつ本学部の特徴を活かして、ILAS セミナー（海外）を提供し、中国、タイ、フランスでの学生研修を実施している。受講生の中にはこの授業の受講を契機にして短期留学や専門課程における研究課題に発展させる者もあり、学生の視野を広げる役割を果たしている。また、他学部からの受講生にとっては本学部の学生たちと意見交換しつつ、農や食の課題をグローバルな視点から考える機会となっており、本学部での教育・研究関心を広く普及させる効果を生み出している。[3.0]
- 本学部の3ポリシーと実際のカリキュラムとの関係を明確化するため、学科別のコースツリーを策定し、農学部学生便覧やガイダンスなどで学生への周知を図っている。授業科目は、外国語科目と農学部専門科目に区分されている。農学部

京都大学農学部 教育活動の状況

専門科目では、農学に関連する最新の研究成果を取り込んだ学識の修得、および各学科別の専門性を深める科目を多岐にわたって提供し、科目のナンバリングにより基礎からより専門的な内容へと段階的に理解が進むように編成しており、特に3年次以降に実習、実験、ゼミなどを充実させている。[3.1]

<必須記載項目4 授業形態、学習指導法>

【基本的な記載事項】

- ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料
(別添資料 5217-i4-1)
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料
(別添資料 5217-i4-2～3)
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数
(別添資料 5217-i4-4)
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料
(別添資料 5217-i4-5)
- ・ 指標番号5、9～10(データ分析集)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 2016年度に附属農場が、教育関係共同拠点として認定され、「次世代の農と食とエネルギーを創るグリーンエネルギーファーム教育拠点」として、「グリーンエネルギーファーム論と実習」を実施している。本科目では、附属農場で夏期集中宿泊(4泊5日)による講義および実習を行う。グリーンエネルギーファームに関する現在の問題と将来の展望について解説し、グループワークによりその議論を深めるとともに、農作物の栽培実習と調理実習により農業生産と食への理解を深める。2016年度から2019年度までに、累計14名が受講し、13名が単位を取得した。[4.8]
- 3年次では高度な専門科目を講義形式で学びながら、学んだ内容を実験や実習における体験を通じて理解するために多くの時間を割いている。全ての講義室にはAV設備が整備され、内容を視覚や聴覚に訴えながら効果的に示している。また、実験・実習のための設備の充実とTA(大学院生)による授業補助により、手厚い指導を行っている。4年次は大部分の学生が分野(研究室)に所属し、所属の分野で課題研究(卒業研究)を遂行しながら、教員、大学院生、同級生との密接なコミュニケーションを通じ相互に研鑽して専門知識と研究者倫理の理解を

深めている。[4.1]

<必須記載項目5 履修指導、支援>

【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料（別添資料 5217-i5-1）
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料（別添資料 5217-i5-2）
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料（別添資料 5217-i5-3）
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料（別添資料 5217-i5-4）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 双方向型の学習支援システムとして、PandA が整備されており、このシステムには、「授業資料提出」「課題の提出、採点、返却」「小テストの実施」「掲示板のディスカッション」「学生への連絡」の機能があり、学生の学習支援に活用されている。学生相談室も整備し、学生の心のケア等相談も行っている。教務システム（KULASIS）により、学生の履修登録、学生への教務連絡（開講通知、休講通知など）、学生への各種情報（シラバス、オフィスアワーなど）を提供し、また、教員の授業科目の管理なども行っている。[5.1]
- ・ 別添資料 5217-i5-5_PandA の案内

<必須記載項目6 成績評価>

【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準（別添資料 5217-i6-1）※2019年度改定版
- ・ 成績評価の分布表（別添資料 5217-i6-2～3）
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料（別添資料 5217-i6-4）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 2016年度入学者からは、GPA制度が導入され、6段階評価方式の授業科目は、GPA参入科目となっている。2018年度から成績評価の厳格化について教員に周知し、シラバスに記載している。全ての科目を対象に、成績評価の分布について農学部教務委員会にてチェックしている。[6.1]

京都大学農学部 教育活動の状況

<必須記載項目7 卒業（修了）判定>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定（別添資料 5217-i7-1～2）
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料
（別添資料 5217-i7-3～4）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 卒業認定の基準については、「農学部学生便覧」により学生に公表・周知を図っている。 [7.1]

<必須記載項目8 学生の受入>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生受入方針が確認できる資料（別添資料 5217-i8-1）
- ・ 入学者選抜確定志願状況における志願倍率（文部科学省公表）
- ・ 入学定員充足率（別添資料 5217-i8-2）
- ・ 指標番号 1～3、6～7（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 多様な学生の受入れを企図として、2016年度入試（2015年度実施）において特色入試を、食料・環境経済学科1学科が先行実施し、次いで、2017年度入試（2016年度実施）において、全6学科での本格実施をしている。2016年度から2019年度までに、志願者は延べ242名、合格者は延べ46名、入学者は延べ46名となっており、特色入試による合格者は、入学後もリーダーシップを発揮して積極的に活動している者が多いという特徴がある。また、Kyoto iUP（吉田カレッジ）にも2019年度から5学科が参画し、うち1学科で2020年度に第3期生が入学する。
[8.1]

<選択記載項目A 教育の国際性>

【基本的な記載事項】

- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数（別添資料 5217-i4-4）
- ・ 指標番号 3、5（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

京都大学農学部 教育活動の状況

- 国際的に活躍する人材の養成を促進するため、留学生を対象に、原則、日本語で学部教育を実施する、「Kyoto iUP (吉田カレッジ)」に積極的に参画している。また、大学間交流協定及び部局間交流協定の増加に伴い、関係大学からの特別聴講学生や短期交流学生の受入れが年々増加し、その後も高い水準を維持している。なお、本学部は、ILAS セミナー (旧国際交流科目) を国際高等教育院に 12 科目 (2019 年度) 提供しており、ILAS セミナー科目の総数に占める割合は約 5%で、学内最大部局である。 [A. 1]
- ・ 別添資料 5217-iA-1 農学部受入留学生数一覧 (2016~2019 年度)
- ・ 別添資料 5217-iA-2_2019 年度 ILAS セミナー農学部提供科目シラバス

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

<必須記載項目1 卒業（修了）率、資格取得等>

【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 5217-ii1-1）
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料 5217-ii1-1）
- ・ 博士の学位授与数（課程博士のみ）（入力データ集）
- ・ 指標番号 14～20（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 第3期中期目標期間（2016～2019年度）における農学部において取得可能で特徴のある免許・資格のうち取得者数は、中学校、高等学校教諭一種免許状は25名、食品衛生管理者・監視員の任用資格は50名、樹木医補は16名、自然再生士は13名、施工技術検定規則1級及び2級受験資格は6名となっている。[1.2]
- ・ 別添資料 5217-ii1-2 農学部・農学研究科各種資格所得等状況（2016～2018年度）

<必須記載項目2 就職、進学>

【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～24（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 農学部全体での進学の割合は8割程度で、資源生物科学科、応用生命科学科、地域環境工学科、森林科学科、食品生物科学科では凡そ7～9割の学生が、食料・環境経済学科では凡そ5割の学生が大学院に進学している。[2.1]

<選択記載項目A 卒業（修了）時の学生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 別添資料 5217-iiA-1 農学部卒業時アンケート結果（2016～2018年度）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 2016～2018年度の卒業時アンケートでは、「農学部における学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の4項目について、卒業対象者に達成度を確認している。「十分に到達している」と「到達している」の割合を合わせると例年ほぼ80%となっており、本学部の教育における満足度は高いと言える。[A.1]

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数(常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路データ	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ 一部の指標（指標番号8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。